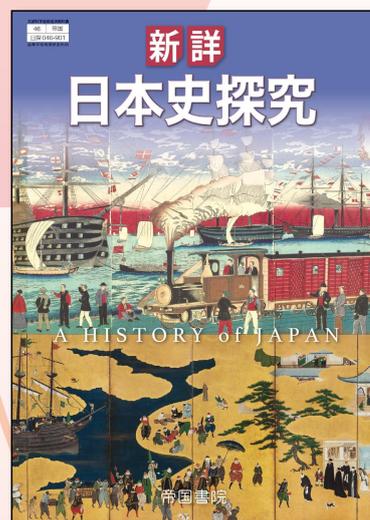
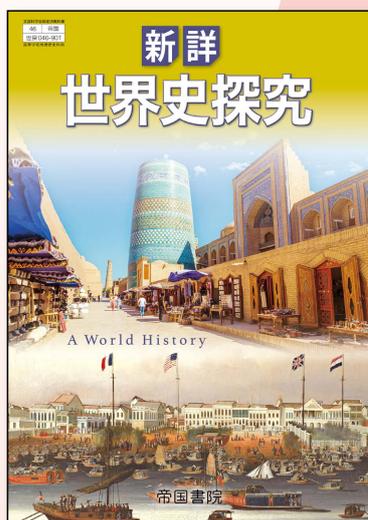
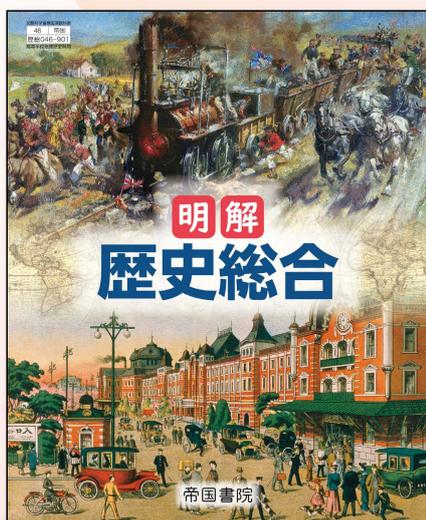


『明解 歴史総合』『新詳世界史探究』『新詳日本史探究』
指導書 Web サポート収録

思考力を測る問題例集

解説・抜粋冊子



概説	「思考力を測る問題例集」とは何か／「思考力を測る問題例集」の構成とポイント	・・・ p.2	
解説記事	大橋康一「心理学から見た思考力の評価 - 本物の思考力を評価しよう -」	・・・ p.3	
問題例	歴史総合①	：2部2章1節「アジアのなかの江戸社会」	・・・ p.7
問題例	歴史総合②	：2部4章2節「イギリスの繁栄と国際分業体制」	・・・ p.9
問題例	世界史探究①	：2部4章3節「地中海周辺と西アジアの帝国」	・・・ p.12
問題例	世界史探究②	：3部3章1節「ルネサンスと宗教改革」	・・・ p.15
問題例	日本史探究①	：1部3章1節1項「ヤマト王権と古墳」	・・・ p.18
問題例	日本史探究②	：4部3章4節1項「第一次世界大戦と日本」	・・・ p.21

「思考力を測る問題例集」とは何か

1 思考力評価をめぐる現状

思考力の育成と評価は、高校教育における重要なテーマであり、共通テストでも中心的な出題方針となっています。一方で、評価の観点や枠組みは示されているものの、その実際の運用については、各先生方に委ねられています。そのため、評価が感覚的になったり、大きな負担となったりすることも少なくありません。

2 思考力問題例集の整備

帝国書院『明解 歴史総合』『新詳日本史探究』『新詳世界史探究』の著者である大橋 康一先生は、こうした状況への問題意識から、「思考力を評価できる問題とは、どのようなものなのか」を具体的に検討なさっていました。そこで今回、上記の各教科書を対象に、思考力を評価する実践的な問題を全単元分ご作成いただくこととなりました。ここで扱う思考力は、知識を前提に、それらを解釈する、推論する、点検するといった思考過程です。その背景となる理論は、本冊子 p.2~5 の、大橋先生ご執筆の記事をご覧ください。

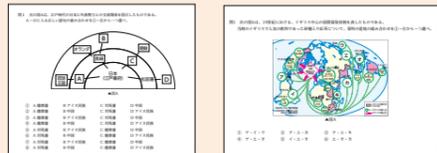
3 本冊子の位置づけと役割

全単元分の問題は、指導資料に付属する指導書 Web サポートとして、教科別に令和9年度4月以降に順次公開予定です。本冊子はそのなかから、各教科2単元分を抜粋して解説とともに掲載したものです。まずは、本冊子の問題をご覧ください。思考力を問う問題とはどのようなものか、確かめていただければと思います。

本問題例集が授業や評価を見直す手がかりとなり、思考力評価の実践を広げるきっかけとなれば幸いです。

「思考力を測る問題例集」の構成とポイント

単元ごとに用意した思考力問題(1単元2~3p)



学期ごとに用意したモニタリングシート*

教科	単元	問題数	時間	難易度	評価	備考
歴史総合	1	10	4	3	17	16
新詳世界史探究	1	11	10	3	4	2
新詳日本史探究	1	11	10	3	4	2

*本冊子には収録していません。

POINT 1

各問題は、教科書の内容に沿って作成しています。単元末の確認問題や、小テスト・定期考査の一部などとして、そのままお使いいただくことができます。

POINT 2

問題は選択形式を基本としており、採点の負担を抑えて思考力を見取ることができます。○×に加えて△を用いることで、「考えたが正答に至らなかった」段階も評価できます。

POINT 3

モニタリングシートで、どの思考ができているか、どこにつまずいているかを整理できます。思考力評価を感覚に頼らず、振り返りや次の指導につなげることができます。

- 各問題は Word 形式での提供となる予定です。なお、著作権の関係上、一部の図版はウェブ掲載が難しいため、「教科書(もしくは弊社資料集)〇〇ページの図〇を挿入」と示す形での提供となる予定です。
- モニタリングシートは Excel 形式での提供となる予定です。
- 本冊子の内容は、今後変更となる場合があります。

解説記事

心理学から見た思考力の評価 —本物の思考力を評価しよう—

滋賀県立高等学校元教諭
大橋 康一(おおはし・こういち)

本記事は、帝国書院発行の冊子
『地歴・公民科資料 ChiReko』2025 年度後期号に
掲載した記事を一部修正したものとします。

1 はじめに

現行高等学校学習指導要領は、目標に「見方・考え方」の育成をうたって登場した。これは思考力の育成を意味すると考えられ、その点を批判する声はあまり聞かない。しかし思考力が何か、どのように育成するのか。そうした基本的な点が不十分なまま、多くの学校や教員は船出を余儀なくされた。そして今、舵のない多くの船が波にもまれ、乗組員は苦しんでいる。本稿で紹介するのは、その苦労を軽減するとともに、全体を良い方向に向かわせる方法の実践例である。

2 思考力に注目した経緯

歴史科目における暗記学習の横行は、今に始まったことではない。生徒にとってそれらは苦しいだけで効果が少なく、テスト後にほとんど記憶に残らない。それは誰もが分かっているが、他に方法はないように思われている。

筆者は教員人生において、主に進路指導を担当してきたこともあり、生徒が自律的に学ぶ方法の研究はライフワークとなった。そんな中で最も役立ったのが、大学時代に学んだ心理学である。当時は知能や思考の本質の解明が始まり、心理学が学習科学に発展し始めた時期だった。

現在の学習科学では、知識は脳内で単語のように単独で存在するのではなく、常に他の知識とつながっている状態であることが分かっている。また思考とは「何らかの目標に到達するための精神活動」と定義され、判断や推論などの機能を含むとされている。そして表現(記述や発言)とは、思考の結果として実行されるものである。つまり学習指導要領の3観点「思考力・判断力・表現力」は、思考力を異なる角度で表現したものといえる。

思考力の評価に本格的に手を付けたのが、アメリカの教育学者 B. ブルームらである。彼らは、冷戦が本格化した 1948 年に、当時アメリカで横行していた暗記教

表1 思考力の分類(改訂版タキソノミー)

思考の分類	筆者による注	
理解する	解釈(変換)する	図像資料から概念を抽出する
	例示する	資料に含まれる概念の例(または共通点)を探す
	分類する	資料に含まれる概念を分類する
	要約する	資料の内容をまとめる(またはまとめたものを比較する)
	推論(予測)する	資料から推測したり、予想したりする
	比較する	複数の資料を比べる
分析する	説明する	歴史の流れに沿って資料を並べる(つなげる)
	差異化する	区別する。違いを見ぬく。何かに焦点を当てる
	組織化する	構造や秩序を見ぬき、位置づける
評価する	帰属化する	本質を見ぬく。主義や思想と結びつける
	点検する	正誤や適否を判断する
批評する	解決方法を検討する。複数の情報を参考に、総合的に判断する	

※石井英真(2020)『現代アメリカにおける学力形成論の展開 再増補版』東信堂 p.474 ~ 475 を参考に改変。

育の改善に向けて、教育目標をリスト化した分類表(タキソノミー)を作成した。その最新版が 2000 年に提案された「改訂版タキソノミー」(以下、タキソノミーと表す)である。つまりタキソノミーとは、事実上の思考力分類法である。分類が分析の基盤であることは、論をまたないだろう。またその有効性は、読者が自身で判断できるだろう。

表1 はタキソノミーの一部である。本来はもう少し大規模なものだが、本稿では石井(2023)にならって現場での実用性を優先し、思考力に限定したものである。以下は、世界史の共通テスト本試験3年分の中で最も頻度の高い(計約 98%、表1 を基にした筆者の調査による。p.17 も同様)4種の思考力である。

○解釈(変換)する

人間はコンピューターと異なり、写真や風刺画などの画像をそのまま扱えず、必ず脳内で情報(知識)に変換する必要がある。そうした図像等を解釈する思考の過程を図に表したものが、図1 である。その典型的な問題例をその下に示す(以下、図2 図3 も同様)。

○推論(予測)する

主に史資料などの文字資料から推測される内容を基に判断する思考力である(図2)。国語や日本史で使わ

ことができる。毎年9月に進学補習用のモニタリングを導入すると、翌月には、ほとんどの生徒の偏差値が6～10ポイント上昇する。図6はある学年の例だが、毎年こうした傾向になる。基盤が整うことで、論述問題の解答の質も上がり、12月にはほとんどの生徒の顔に自信や意欲が表れている。基盤整備の効果は絶大といえるだろう。

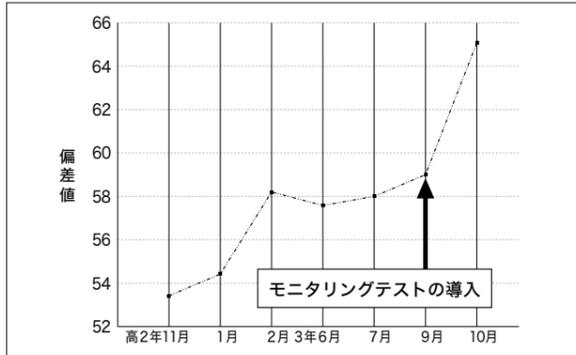


図6 モニタリングの効果

4 思考力問題の作り方

最後に、思考力で一番の課題である「問題の作成法」について述べる。思考力問題といえば記述式は定番だが、それ以外はないのだろうか。そこでもう一度、表1や図1～図4を見てもらいたい。思考力とは、知識の理解度や、それを使って判断する力である。同じ知識を持っていても、理解度で判断が異なることは珍しくない。つまり思考力問題作成の要点は「判断力」である。であれば判断力を問う問題、すなわち大学入学共通テストのような問題を作ればよい。とはいえ、そういう問題は作りやすくない。この問題を解決する手段が、教科書の本文を使った方法である。

例えば『新詳世界史探究』p. 7～8の1部1章本文の「人類の進化」についての記述をまとめると、以下のようになる(A～D等の記号は筆者による付加)。

- A. 猿人は打製石器を作成し、狩猟採集生活をおくった。
- B. 原人はアフリカ大陸外に広がり、火を使用した。
- C. 旧人は精神文化をもち、新人とも共存した。
- D. 新人は世界に拡散し、精巧な道具や芸術を発展させた。

実際の作業では、教科書本文を項(もしくはある程度内容のまとまり)ごとに、2～4分割するとまとめやすい。帝国書院の教科書の本文は内容のバランスが良いので作業しやすいが、指導書に付随の「指導書 Web サポート」の教科書本文データを使えば格段に楽になる。最後に主語をそろえるなど文章の体裁を整えてほしい。



図7 礫石器
『新詳世界史探究』p. 7 3
(写真提供: サイネットフォト)



図8 クロマニヨン人の洞窟絵画(ラスコー)
『新詳世界史探究』p. 8 1
(写真提供: アフロ)

次は、タキノミーを活用して思考力問題にする段階である。《点検する》問題(いわゆる知識問題)なら、一つだけ誤文(または正文)にすれば、選択問題にできる。《説明する》なら、猿人・原人・旧人・新人を削除し、以下のような文章にして、並び替え問題にできる。

- ア. 打製石器を作成し、狩猟採集生活をおくった。
- イ. アフリカ大陸外に広がり、火を使用した。
- ウ. 精神文化をもち、新人とも共存した。
- エ. 世界に拡散し、精巧な道具や芸術を発展させた。

《推論(予測)する》なら、以下のように礫石器(図7)やラスコー洞窟絵画(図8)の資料とA～Dのいずれかを組み合わせ、例えば以下のような正誤問題にできる。

- ア. 図7は、Aの内容に関する資料である。
イ. 図8は、Cの内容に関する資料である。
- ① アー正、イー正 ② アー正、イー誤
 - ③ アー誤、イー正 ④ アー誤、イー誤

最後に一つ、本稿の隠れた意図も示したい。それは、あえて選択式の問題作成法を取り上げることで、思考力問題は記述式だけではないことを理解してもらうことである。記述問題で思考力を判断できることは間違いないが、作問や採点が負担になることも否めない。読者はバランスを判断し、作問や評価に活用していただきたい。

(引用文献)

- i 藤永保監修(2013)『最新心理学事典』平凡社
- ii 石井英真(2023)『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論－観点別評価で学力を伸ばす「学びの舞台づくり」－』図書文化社
- iii 平山みほか(2010)『日本語版批判的思考能力尺度の構成と性質の検討－コーネル批判的思考テスト・レベルZを用いて－』『日本教育工学会論文誌』33巻4号、日本教育工学会

問題例 歴史総合1



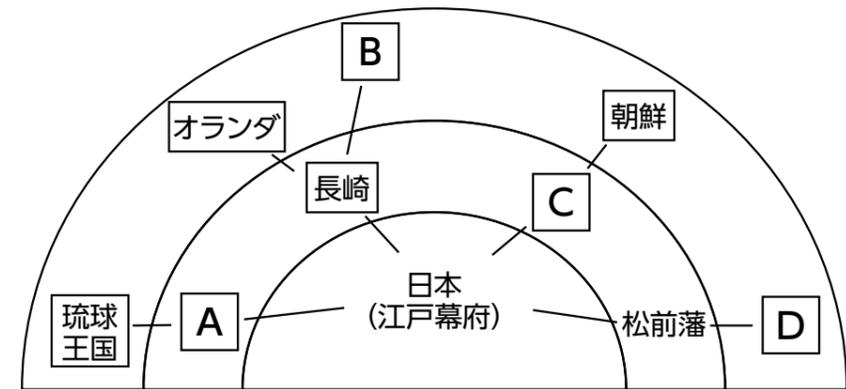
2部2章1節「アジアのなかの江戸社会」 準拠問題(全5問)

『明解 歴史総合』p.19-20

解答



問1 次の図Aは、江戸時代の日本と外部勢力との交易関係を図示したものである。A～Dに入る正しい語句の組み合わせを①～⑧から一つ選べ。



▲図A

- | | | | |
|---------|---------|-------|---------|
| ① A 薩摩藩 | B アイヌ民族 | C 対馬藩 | D 中国 |
| ② A 薩摩藩 | B 中国 | C 対馬藩 | D アイヌ民族 |
| ③ A 薩摩藩 | B アイヌ民族 | C 対馬藩 | D 中国 |
| ④ A 薩摩藩 | B 中国 | C 対馬藩 | D アイヌ民族 |
| ⑤ A 対馬藩 | B アイヌ民族 | C 薩摩藩 | D 中国 |
| ⑥ A 対馬藩 | B 中国 | C 薩摩藩 | D アイヌ民族 |
| ⑦ A 対馬藩 | B アイヌ民族 | C 薩摩藩 | D 中国 |
| ⑧ A 対馬藩 | B 中国 | C 薩摩藩 | D アイヌ民族 |

問2 江戸時代の日本の交通網について述べた①～④の文のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ① 日本海を使った海運が発達したことから、山陰地方や北陸地方から大陸と直接結ぶ航路が開かれた。
- ② 蝦夷地(北海道)や東北地方の日本海側の産物が京都や大坂に運ばれる場合、遠回りせずに、主に琵琶湖の水運を利用して最短距離で運ばれた。
- ③ 九州の産物は、主に四国地方の太平洋岸を介して、大坂や江戸に運ばれた。
- ④ 参勤交代や旅行など人の移動手段としては主に陸上交通が、大量に物資を運搬する用途としては主に海上交通や水運が利用された。

問3 江戸時代の日本について述べた①～④の文のうち、正しいものを一つ選べ。

- ① 各地で大規模な土木工事や農地の開発が行われた。
- ② 農民が自発的に換金用の作物を栽培して収入を増やし、藩もそれを支援した。
- ③ 戦国時代と比べ、人口が大きく増加した。
- ④ 多数の琉球王国出身の商人や朝鮮出身の商人が、大坂や松前で取り引きに参加していた。

問4 次の図は、江戸時代の長崎港と釜山港を描いたものである。

図B・図Cも参考にしてア・イの文の正誤を判断し、正しい組み合わせを①～④から一つ選べ。



▲図B



▲図C

ア 長崎と釜山で共通するのは、いずれも外国人の交易が許可され、本土から収容施設が隔離されて人の出入りが厳重に管理されていることである。

イ 長崎と釜山で異なるのは、長崎にはヨーロッパ人が来航し、海外情報を幕府に提出させられていたことである。

- ①アー正 イー正
- ②アー正 イー誤
- ③アー誤 イー正
- ④アー誤 イー誤

問5 江戸時代の日本の文化について述べた①～④の文のうち、正しいものを一つ選べ。

- ① 農村で読み書きが必要とされたのは、農民が自治のためにみずから事務作業をする必要性があったからである。
- ② 武士のための学校が各地につくられ、主に読み書きや計算といった基礎的な学問が教えられていた。
- ③ 多くの藩が設立した教育機関では、中国から伝来した学問を中心とした教育が行われ、日本の伝統的な価値観に対する関心は薄かった。
- ④ 欧米から伝来した学問は、幕府がキリスト教に関する知識を禁止する方針をとっていたため、各地の私的な教育機関などでひそかに研究された。



2部4章2節「イギリスの繁栄と国際分業体制」
準拠問題 (全7問)

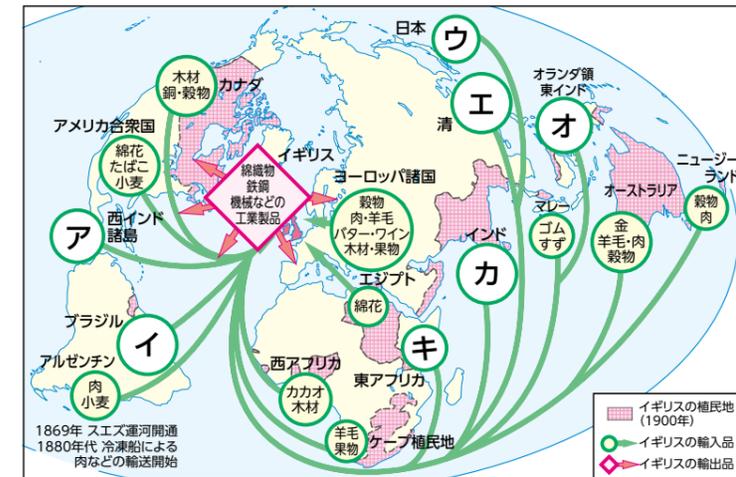
「明解 歴史総合」 p.45-46

解答



問1 次の図Aは、19世紀における、イギリス中心の国際貿易体制を表したものである。

当時のイギリスで人気の飲料であった砂糖入り紅茶について、原料の産地の組み合わせを①～④から一つ選べ。

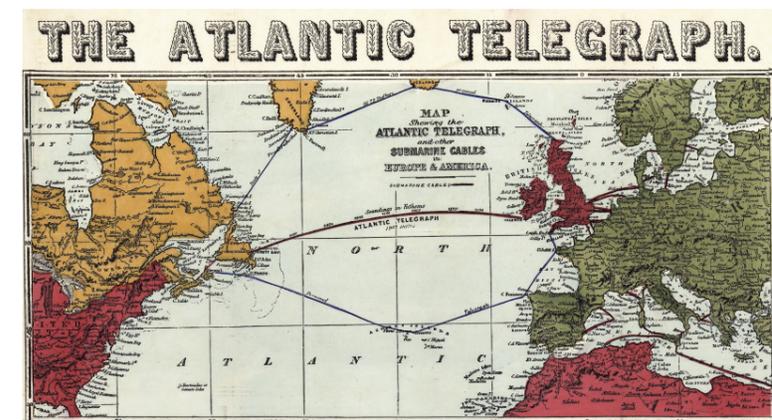


▲図A

- ① ア・イ・ウ
- ② ア・エ・カ
- ③ ア・エ・キ
- ④ ア・エ・オ
- ⑤ イ・エ・オ
- ⑥ エ・オ・カ

問2 次の図Bは、図Aと同じ時期にイギリスが敷設した、海底電信ケーブルの地図である。

電信ケーブルは金属製のため、海中では劣化してしまう。そのため、ある天然資源を加工したものが保護用に使われた。その天然資源が図Aのなかにあるが、それは何か。①～④から一つ選べ。



▲図B

- ① 銅
- ② 木材
- ③ ゴム
- ④ 羊毛

問3 18世紀に国際的な貿易が本格化し、イギリスが豊かになっていった。これを説明するために現れたのが、19世紀初頭のデヴィッド・リカードによる比較優位説である。彼は、自国と当時の経済先進国の一つポルトガルを比較して、以下のようにとらえた。

毛織物とワインについて考えたとき、どちらの商品も少ない人数で生産できるポルトガルは、生産性が高いために貿易をする必要は少ない。しかしポルトガルが、より生産性の高いワインに特化すれば、より生産が増え、イギリスがその分を補って毛織物に特化して貿易をすれば、両国は全体として生産量が増え、どちらも利益を得ることができる。

上記のリカードの説を図示したものが、下の表1・表2である。表2内の数値A・Bについて、正しい組み合わせを①～④から一つ選べ。

	イギリス	ポルトガル	2国の合計
毛織物を1単位生産するのに必要な人数	5人	4人	2単位
ワインを1単位生産するのに必要な人数	4人	3人	2単位

▲表1 両国がそれぞれ毛織物とワインを生産する場合

	イギリス	ポルトガル	2国の合計
毛織物生産の人数	9人	0人	A単位
ワイン生産の人数	0人	7人	B単位

▲表2 イギリスが毛織物のみを、ポルトガルがワインのみを生産する場合

- ① A 2.25 B 2.33
- ② A 2.25 B 1.75
- ③ A 1.8 B 2.33
- ④ A 1.8 B 1.75

問4 問3のリカードの主張を踏まえて、18世紀以降の世界について述べたア・イの文の正誤を判断し、正しい組み合わせを①～④から一つ選べ。

- ア イギリスは毛織物生産に特化し、産業革命を起こした。
- イ ポルトガルは農産物加工品の生産に特化し、日本との南蛮貿易などを行って繁栄した。

- ①アー正 イー正 ②アー正 イー誤 ③アー誤 イー正 ④アー誤 イー誤

問5 ヴィクトリア時代のイギリスについて述べた①～④の文のうち、正しいものを一つ選べ。

- ① 1870年の教育法で、初等教育から大学教育までの教育体系が整備された。
- ② 1871年の労働組合法では、労働組合の結成が合法化された。
- ③ 選挙法改正が何度か行われ、選挙権がすべての成人に認められた。
- ④ 二大政党が、国王の指導に基づいて国政をになう政治体制が定着した。

問6 19世紀の欧米における産業革命と農業との関係について述べた①～④の文のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ① フランスやドイツ西部では、技術革新で食料需要の増加に応えた。
- ② アメリカ南部では、機械による大規模農業が発展した。
- ③ 東ヨーロッパの多くの地域が、イギリスへの穀物供給地となった。
- ④ ロシアでは、奴隷的な農民による農業生産が盛んになった。

問7 19世紀の世界各地の社会について述べたア・イの文の正誤を判断し、正しい組み合わせを①～④から一つ選べ。

- ア アジア・アフリカでは、欧米への輸出向けの農産品に依存する、モノカルチャー経済化した地域が現れた。
- イ イギリス植民地では、インドや中国出身の移民が奴隷化されて労働力の中心となった。

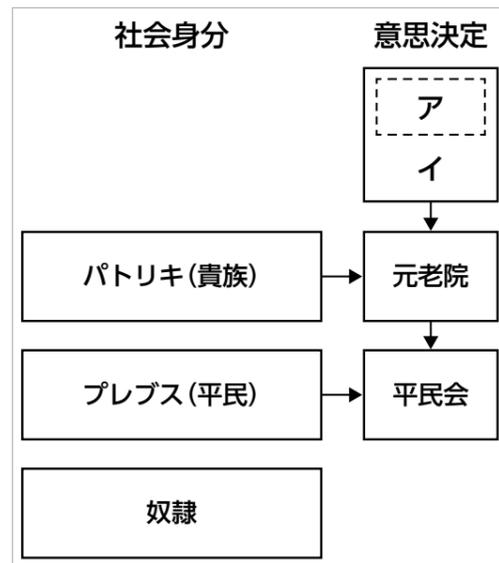
- ①アー正 イー正 ②アー正 イー誤 ③アー誤 イー正 ④アー誤 イー誤



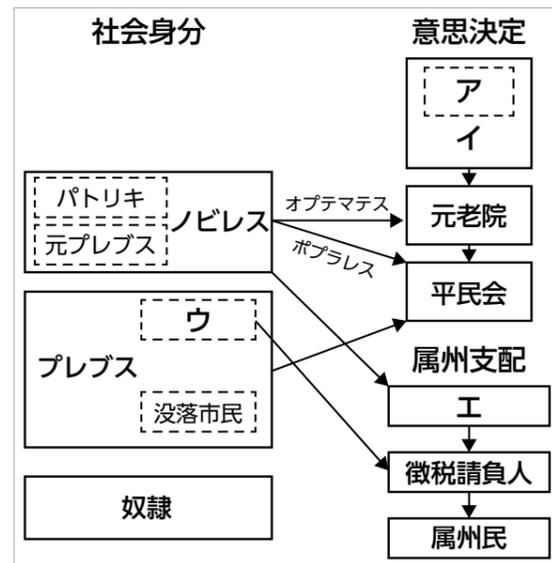
2部4章3節「地中海周辺と西アジアの帝国」 準拠問題（全6問）

『新詳世界史探究』p.72-81

問1 図Aは前4世紀頃、図Bは前1世紀頃の古代ローマ共和政時代の社会階層と意思決定機関の関係である。ア～エに入る語句の正しい組み合わせを①～④から一つ選べ。



▲図A



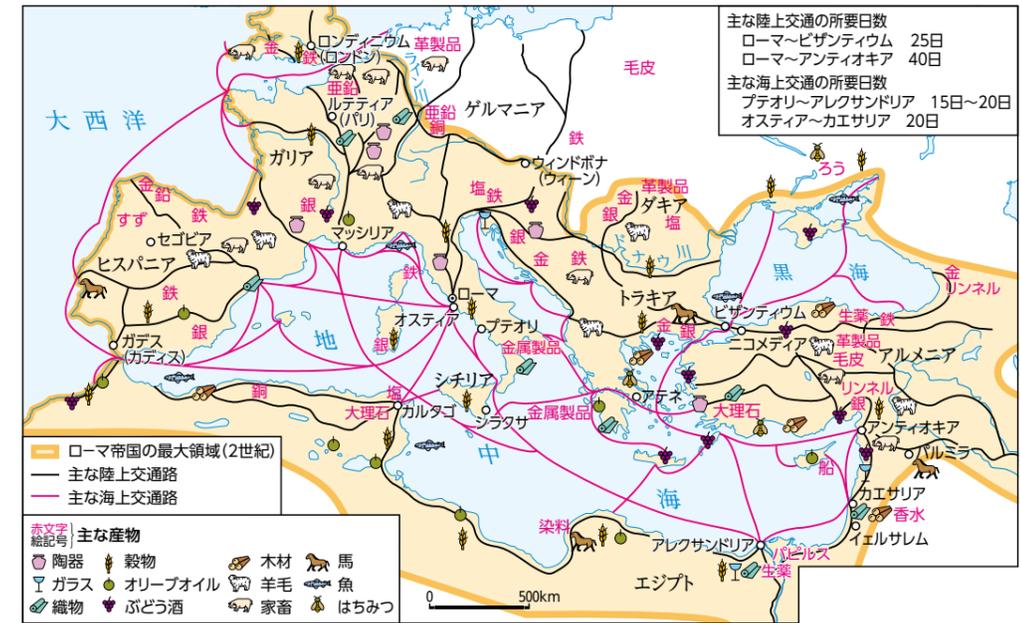
▲図B

- | | | | | |
|---|-------|-------|------|------|
| ① | ア 執政官 | イ 独裁官 | ウ 総督 | エ 騎士 |
| ② | ア 執政官 | イ 独裁官 | ウ 騎士 | エ 総督 |
| ③ | ア 独裁官 | イ 執政官 | ウ 総督 | エ 騎士 |
| ④ | ア 独裁官 | イ 執政官 | ウ 騎士 | エ 総督 |

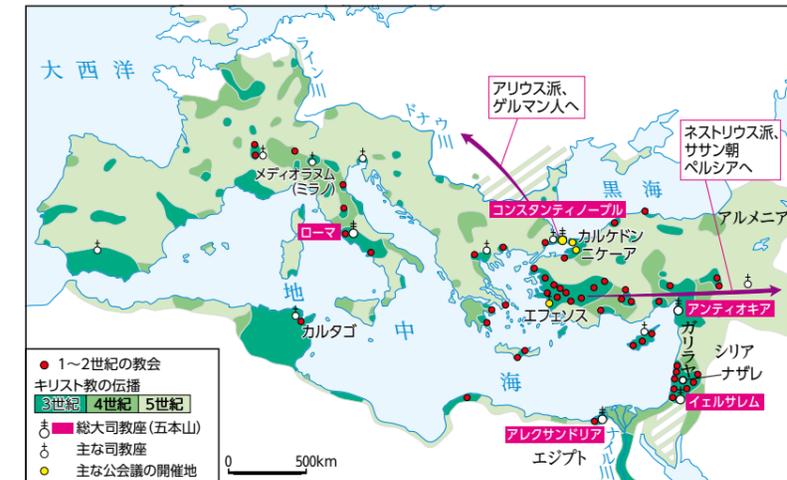
問2 「ローマの平和」とよばれる時期について説明した①～④の文のうち、最も誤っている内容のものを一つ選べ。

- ① 共和政時代に、領土が最大に達した時期が含まれている。
- ② ローマの帝政が始まってから、五賢帝時代の終わりまでが含まれている時期である。
- ③ ローマ帝国の東方で、ラテン語とギリシア語が広く使われていた時期である。
- ④ 首都ローマを起点とした街道網や地中海の海路が整備された時期である。

問3 次の図Cと図Dを比較して分析したア・イの文についての妥当性を判断し、正誤の正しい組み合わせを①～④から一つ選べ。



▲図C

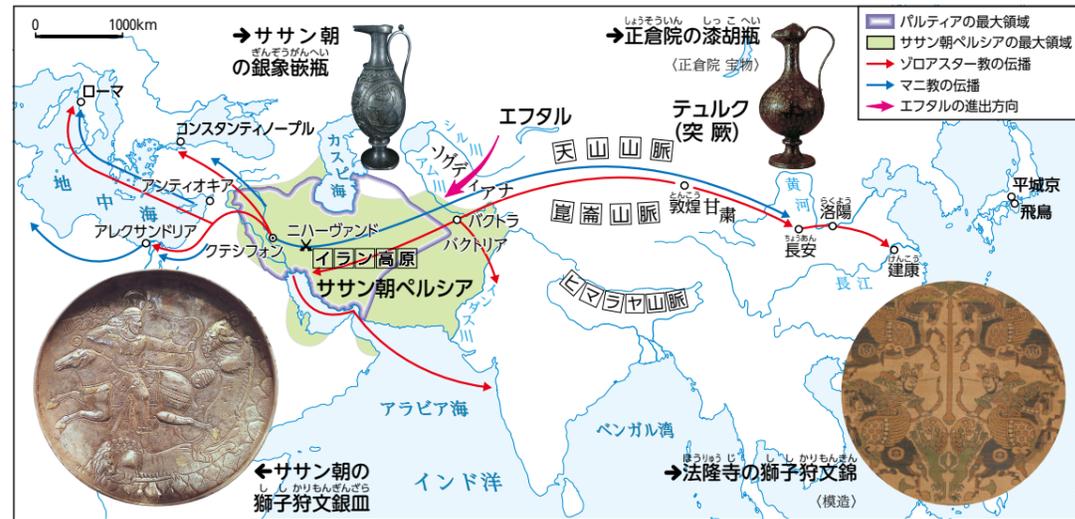


▲図D

- ア 3世紀にキリスト教が広まっていた地域は、地中海沿岸の交通の要衝が多く、人口の多い都市部の住民に信者が多かった可能性がある。
- イ 3世紀から4世紀にかけてのキリスト教が広まった地域をみると、4世紀のゲルマン人の大移動による混乱がキリスト教を衰退させた可能性がある。

- ①アー正 イー正 ②アー正 イー誤 ③アー誤 イー正 ④アー誤 イー誤

問4 正倉院や法隆寺の宝物の多くは、デザインはササン朝美術の影響を受けているが、製作地はササン朝や西アジアでないものが多いことがわかっている。図E内の正倉院と法隆寺の宝物も、製作地は西アジアではない。そのように判断できる理由を述べたア・イの文について、妥当性を判断し、正誤の組み合わせを①～④から一つ選べ。



▲図E

ア 正倉院の漆胡瓶のように、西アジアの金属素材に代えて、日本産の動植物素材が使われていたから。
 イ 法隆寺の獅子狩文錦のように、西アジアにいない動物に乗っている人物が描かれていたから。

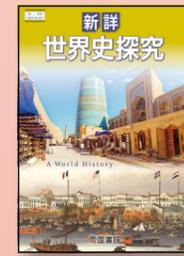
- ①アー正 イー正 ②アー正 イー誤 ③アー誤 イー正 ④アー誤 イー誤

問5 ローマ帝国が「3世紀の危機」を克服するために行った改革について述べた①～④の文のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ① 皇帝の権威を高めるため、ペルシア風の宮廷儀礼が採用された。
- ② 複数人の皇帝によって、国土防衛を分担する体制が常に築かれた。
- ③ 農民の移動が禁じられ、職業の固定化が進められた。
- ④ 高品位の金貨が発行され、経済活動の活発化が目指された。

問6 ギリシア文化と地中海周辺地域の帝国（ローマ帝国やペルシア帝国）との文化的な関係について述べた①～④の文のうち、誤った内容を含むものを一つ選べ。

- ① ローマ文化は、五賢帝時代にはギリシアの影響が強かった。
- ② ローマの公用語は、専制君主政時代からラテン語に統一された。
- ③ ペルシア文化は、パルティア時代初期にはギリシアの影響が強かった。
- ④ ペルシアの公用語は、ササン朝時代にはペルシア語であった。



問題例 世界史探究②

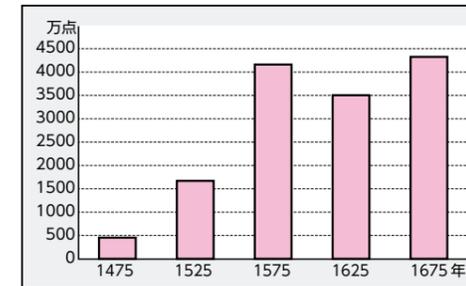
解答



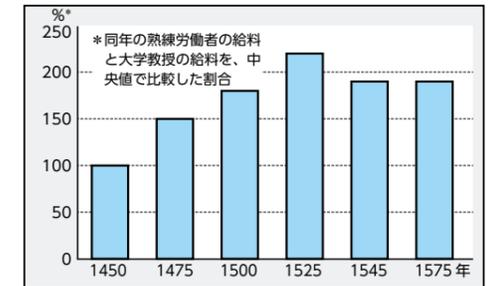
3部3章1節「ルネサンスと宗教改革」 準拠問題（全6問）

「新詳世界史探究」p.173-178

問1 次の図A・Bは、イタリア=ルネサンス時代におけるイタリアの書籍出版点数と、同時期のイタリアの大学教授の給料の動向である。両者には相関関係があるようにみえるが、この2資料だけでは断定できない。両者に関係があるか検証するため、追加で用意する資料として、最もふさわしくないものを①～④の文から一つ選べ。



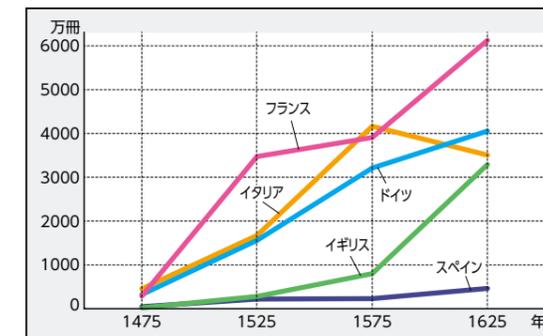
▲図A 近世イタリアの書籍出版点数



▲図B 近世イタリアの大学教授の給料

- ① 印刷物の分野別の売れ行き状況など、購入者の関心がわかるもの。
- ② 印刷物の地域別の売れ行き状況など、購入者の出身地がわかるもの。
- ③ 大学の開設学部の変移など、大学の規模や数がわかるもの。
- ④ 大学教授の日記など、当時の大学教授がどのような業務を行っていたかがわかるもの。

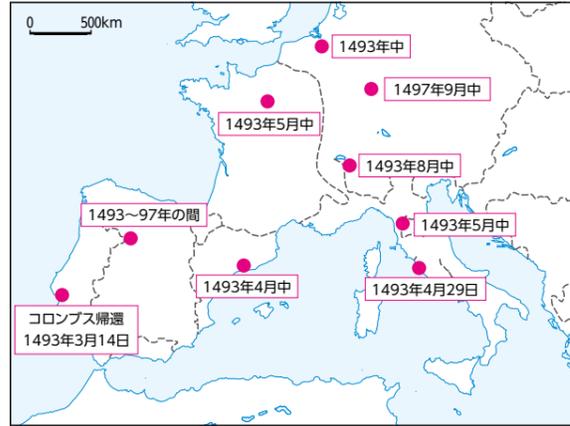
問2 図Cはルネサンス時代のヨーロッパ各国の書籍出版点数の推移である。このグラフから推測できることとして、誤っている文を①～④から一つ選べ。



▲図C ヨーロッパの書籍出版点数

- ① 活版印刷機が発明された国では、宗教改革が始まってから出版点数が伸びている。
- ② ルネサンス時代に国際戦争の戦場となった国では、出版点数が減少している時期がある。
- ③ カルヴァン派が広まった国では、出版点数が伸びている。
- ④ 国の首長が常にカトリック信者であった国では、出版点数は伸び悩んでいる。

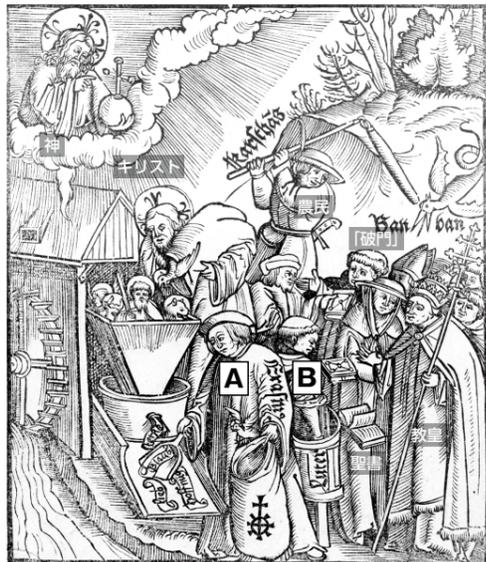
問3 図Dは、コロンブスによるアメリカ大陸発見の情報（実際にはスペイン王に報告した手紙の写し）が、ヨーロッパ各国に伝わった最初の時期を示している。情報は、いったん「中央」に集められてから周辺へと配信されるのが一般的であるが、それを踏まえて図Dを確認し、①～④の文から妥当であるものを一つ選べ。



▲図D

- ① スペイン発の情報が、ヨーロッパ各地に1～2か月で伝わったと考えられる。
- ② スペイン発の情報が、イタリア経由で各地に伝えられたと考えられる。
- ③ スペイン発の情報が、北フランスやオランダ経由で各地に伝えられたと考えられる。
- ④ スペイン発の情報が、イタリア～北ドイツ～オランダへと反時計回りで伝えられたと考えられる。

問4 図Eは、宗教改革期に出版されたパンフレット（製本されずに折りたたまれた冊子状のもので、製本された書籍と区別された）の表紙である。この表紙では、パンフレットの内容が分かりやすく図示されている。表紙の裏には解説として「イエス=キリストが神の言葉を粉挽き機に入れ、Aの人物が袋に粉を集め、Bの人物（Aに背を向けている）が聖書にして配っているが、右下の聖職者たちは受け取りを拒否し、地面に落ちようとしている。それを見た農民が打ち倒そうとしている」と書かれている。この図に関する解説として、①～④の文のうち、誤っているものを一つ選べ。



▲図E

- ① Aの代表作は『愚神礼讃（痴愚神礼讃）』である。
- ② Bの代表作は『95か条の論題』である。
- ③ Aはカトリック教会から破門された。
- ④ この時期AとBは宗教改革において協力していた。

問5 図Fは宗教改革期に出版された書籍類とパンフレットの点数の推移である。問4の図Eと、以下の図Fから判断し、誤っている可能性が高いものを、①～④の文から一つ選べ。



▲図F 宗教改革期の書籍とパンフレットの出版点数

- ① 16世紀に出版物が全体的に増加し、価格が安価になって庶民が手に入れやすくなった。
- ② 16世紀初頭の宗教改革における論争は、互いに節度あるものだった。
- ③ ルターの教説は、彼の主張が書かれた書籍よりパンフレットの影響が強かった。
- ④ 活版出版は、ルターの教説が広まるのに大きな役割を果たした。

問6 次の史料は、「大航海時代」の航海者の記録である。この航海者が辿った航路として正しいものを、地図Gの①～④から一つ選べ。（史料は一部要約している。）

われわれは4つの高い島の姿を望見した。水先案内人が、あれがマルーコ島だと告げた。われわれは神に感謝をささげ、全門の大砲を轟かせた。われわれがこのように有頂天になったとしても、不思議なことではない。なぜなら、われわれはこのマルーコ島を探し続け、あともう2日で27ヵ月になるのだ。



▲図G

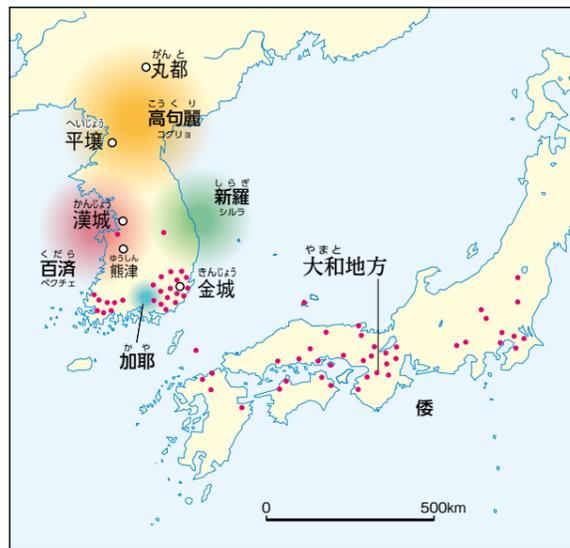
1部3章1節1項「ヤマト王権と古墳」
準拠問題 (全7問)

「新詳日本史探究」p.26-31

解答



問1 古代の日本は、朝鮮半島に成立した国家とさまざまな関係もちながら、国家形成を進めていった。古墳には、そうした時代を反映し、日本列島では入手が困難な物品が収められている。図Aは、5世紀の朝鮮半島の国家と、朝鮮半島でつくられたある物品の出土の分布を示したものである。古墳の副葬品とされることが多い、その物品とは何か、当てはまるものを①～⑤から一つ選べ。



▲図A

- ① 三角縁神獣鏡 ② 石包丁 ③ 鉄の延べ板 ④ 勾玉

問2 古墳の副葬品について述べた次の文ア～ウのうち、内容の正誤の数の組み合わせとして、適切なものを①～④から一つ選べ。

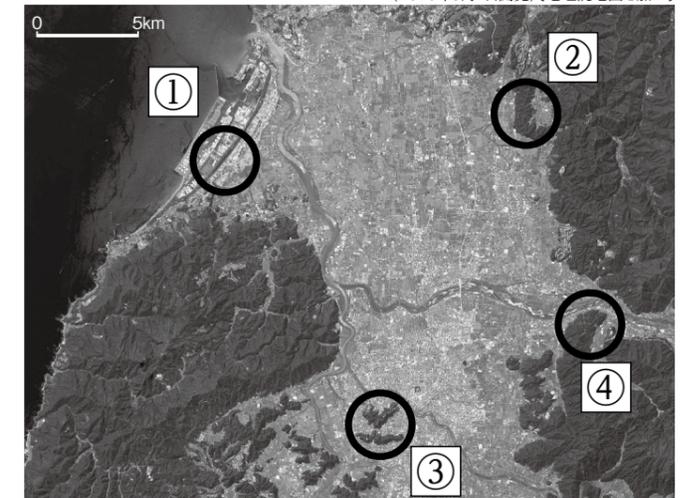
- ア 卑弥呼が魏から下賜されたとされる様式の鏡は、古墳の副葬品からは見つからない。
イ 古墳から見つかる土器は、すべて国内で発達した技術がもとになっている。
ウ 前期の古墳に副葬された馬具は、乗馬の風習が大陸から伝わった証拠と考えられている。

- ① 正3 誤0 ② 正2 誤1 ③ 正1 誤2 ④ 正0 誤3

問3 古墳の多くは、災害のおそれのない丘陵地や段丘面、交通の要衝などにつくられたことがわかっている。畿内の古墳分布図である図Bを参考に、図Cの越前国の①～④の○で囲まれた地域のうち、古墳が存在しないと思われる地域を一つ選べ。なお、図Cは現代のものであるが、地形は全体として古代とほとんど変化していない。

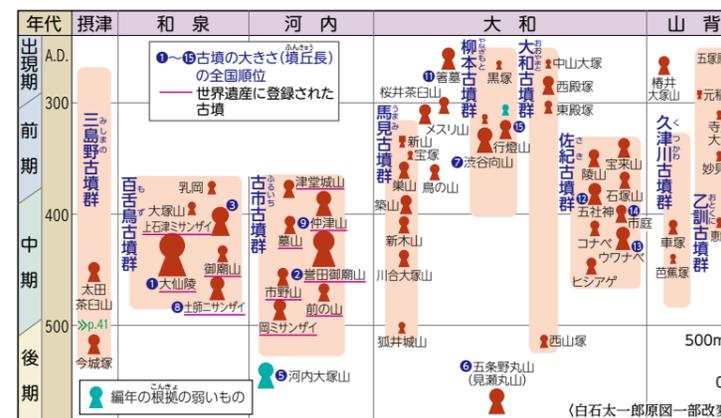


▲図B 畿内の古墳分布図

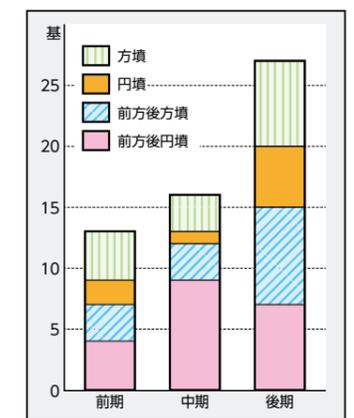


▲図C 越前国（現在の福井県の一部）の、陰影起伏図と航空写真の合成

問4 図Dは畿内5か国、図Eは出雲国の、主な大型古墳の形態別推移を示している。問3の図Bも参考に、大型古墳について分析した①～④の文のうち、最も誤っているものを一つ選べ。



▲図D 畿内の大型古墳の変遷



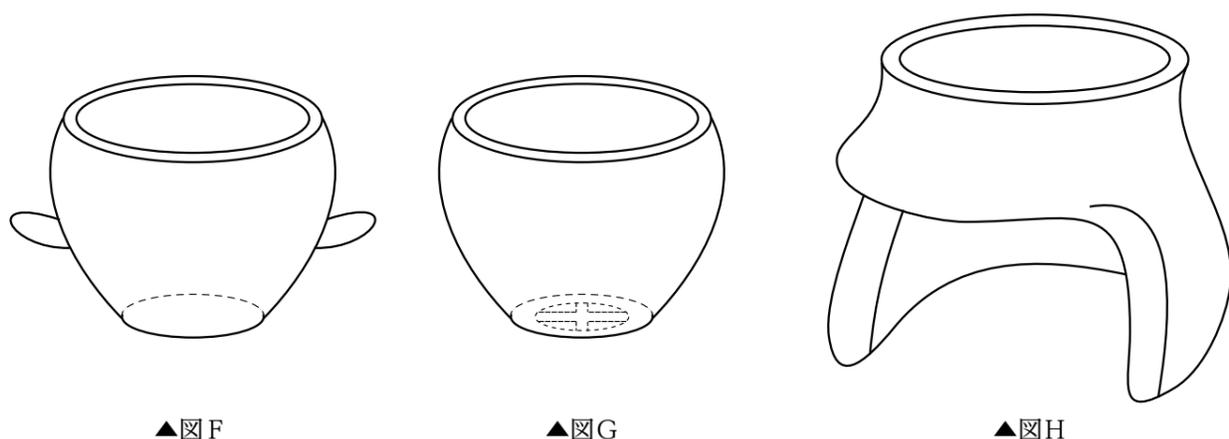
▲図E 出雲国の大型古墳の変遷

- ① 大型古墳の形態は、どの時代においても、畿内より出雲国の方が多様である。
② 畿内の大型古墳は、前期から中期にかけて建造の中心地が西と北に移ったように思われる。
③ 畿内と出雲国では、大型前方後円墳の最盛期が同じ時期である。
④ 2地域のデータからは、前方後円墳の形が円墳と方墳が合成されてきたことがわかる。

問5 高句麗の長寿王が414年に建立したとされている好太王碑は、1880年ごろ再発見された。碑文に刻まれた人物は、朝鮮の史書『三国史記』に登場する「広開土王」と特定された。このような、歴史的に存在が確実とされている個人が考古学的発見と合致する事例は、他にもみられる。次の①～④の歴史記録のうち、そうした事例に該当するものはどれか、一つ選べ。

- ① 漢書 ② 魏書（魏志） ③ 岡田山1号墳出土大刀銘文
- ④ 江田船山古墳出土鉄刀銘文

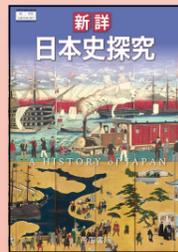
問6 図F～Hはいずれも、須恵器の形状を描いたイラストである。図Fは底に穴が開いておらず、側面に取っ手がつく。図Gは底に穴が開いている。これらは、図Hの竈（かまど）の上に置いて使われたと思われる。図E・Fの用途を推測した事例①～③のうち、妥当なものを一つ選べ。該当するものがない場合は④を選べ。



- ① 図F・Gの表面に描かれた模様や混在物を確認する。
- ② 図F・Gの表面に付着している煤（すす）を観察する。
- ③ 人物埴輪のなかから図F・Gを使っている姿を確認する。

問7 古墳時代の社会について述べた次の①～④のうち、正しい内容のものを一つ選べ。

- ① 土師器も須恵器も、古墳時代が始まる前にはなかった技法でつくられた土器である。
- ② 古墳時代の副葬品に馬具が増加することは、国内で独自の戦闘技術の進歩があったことを反映していると考えられている。
- ③ 生命の危険をかえりみない方法で、神に判断をあおぐ占いや審判が普及していた。
- ④ 形の整った山や巨石や自然に人が集まる場所に対する信仰や、人々に恵みや災害をもたらす存在としての氏神への信仰が広まった。



4部3章4節1項「第一次世界大戦と日本」
準拠問題（全5問）

「新詳日本史探究」p.278-281

問1 次の資料1～3は、いずれも第一次世界大戦中のできごとに関するものである。これらの資料を時代順に正しく並び替えたものを、①～⑥のうちから一つ選べ。

▼資料1

這次の大戦も愈よ終りを告げ、平和を回復し、人心落ち着きて、物を観得る暁に至れば、米国は申す迄もなく、我れに好意を有する英仏人と雖、必ずや愕然として畏るる所を知り、我が国を目して極東の平和に対する最大の危険国となし、欧米の国民が互いに結合して、我が国の支那に於ける位地の顛覆に努むべきは、今より想像し得て余りあり。かくて我が国の青島割取は実に不拔の怨恨を支那人に結び、欧米列強には危険視せられ、決して東洋の平和を増進する所以にあらずして、却つて形勢を切迫に道くものにあらずや。

▼資料2 *原英文

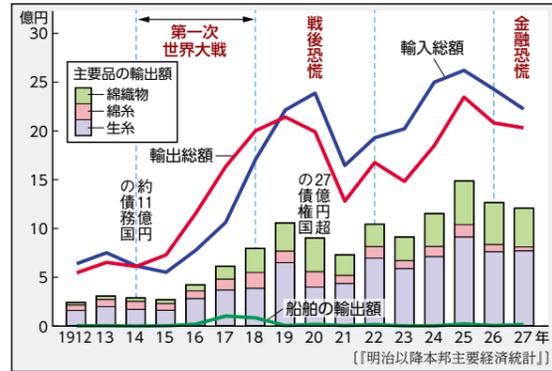
日本の首相として、私はすでに述べてきたが、いま再びアメリカ国民と世界の人々に対して表明する。日本にはいかなる隠された意図もなく、さらなる領土を獲得しようとする願望もなく、中国やその他の人々が現在所有しているいかなるものも奪おうとする考えもない。

▼資料3

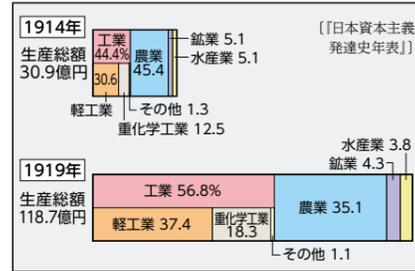
出兵論者の多数の議論に予輩の甚だ遺憾とする所は、何の為にするかの目的の意識が明白で無い事である。而して彼等の最も喜んで国民に語らんとする所は、出兵の結果として他日帝国の獲得し得べき物質的利益である。(中略) 吾人の考え得べき出兵の目的は尠くとも三つある。一つは帝国の自衛の爲めである。も一つは露国を救援する爲めである。終りには連合与国の協同目的を後援するが爲めである。此等の点は出兵論者も亦漠然と認めて居る所である。唯此等の目的の爲めに、果して帝国は、一部の論者の主張するが如く、大兵を西伯利の野に送るの必要ありや否や。之が実に大いなる問題である。

- ① 1→2→3 ② 1→3→2 ③ 2→1→3
- ④ 2→3→1 ⑤ 3→1→2 ⑥ 3→2→1

問2 図Aは第一次世界大戦前後の日本の貿易額の変化、図Bは第一次世界大戦前後の生産額を示している。これらの図を読み取ってわかることとして、以下のア・イの文の内容の正誤の組み合わせを①～④から一つ選べ。



▲図A



▲図B

- ア 1914年～19年に軽工業も重化学工業も、生産額は4倍以上伸びている。
 イ 第一次世界大戦の影響によって、1914年～19年の重化学工業分野の輸入は減少した。

- ①アー正 イー正 ②アー正 イー誤 ③アー誤 イー正 ④アー誤 イー誤

問3 次の史料は、第一次世界大戦中である1918年の東京府（現東京都）の高額納税者リストを、経済誌が分析した記事の一部である。空欄ア～ウに入る正しい語句の組み合わせを、①～④から一つ選べ。

時局以来財界の激変は凄じいもので、(中略) 全国の高額納税者に多数の新顔が現はれて居る。其著しい実例は東京府であらう。是迄の東京府高額納税者中で相変らずの者は唯僅かに安田善三郎氏で、他の十四名は悉く新顔である。新顔の内でも旧家と云ふべきは堀越角次郎氏一人で、其他は 成金五名株式仲買業六名、 成金 成金各々一名と云ふ顔触れである。

- ① ア 織物 イ・ウ 鉄・茶 ② ア 茶 イ・ウ 鉄・船
 ③ ア 船 イ・ウ 茶・織物 ④ ア 鉄 イ・ウ 船・織物

問4 第一次世界大戦前後の日本の産業界を説明した次の文ア・イの、正誤の組み合わせを①～④から一つ選べ。

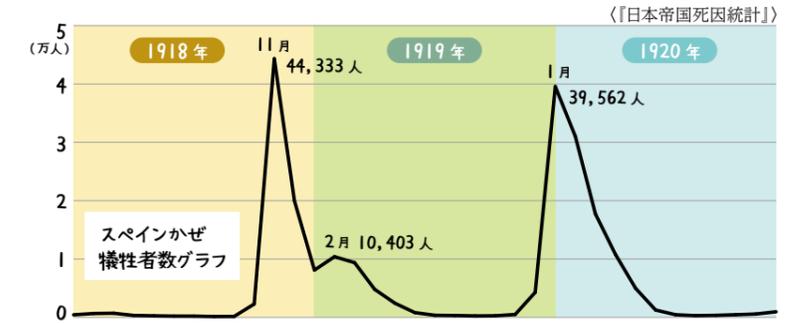
- ア 三井・三菱・住友の三大紡績会社が、株式保有による市場支配を強めた。
 イ 政府がILO（国際労働機関）加盟による深夜労働禁止を進めたことや、大戦後の賃金上昇のため、海外に製造拠点を移す日本企業が現れた。

- ①アー正 イー正 ②アー正 イー誤 ③アー誤 イー正 ④アー誤 イー誤

問5 次の説明を読み、下の問に答えよ。

太郎さんは、新型コロナウイルス感染症の100年前に、世界的に「スペインかぜ」とよばれる感染症が流行していたことに興味をもった。そこから、日本においてスペインかぜがどの程度広まり、どのように受け止められていたのか、調査してみることにした。

太郎さんは、まず、「スペインかぜ」の日本での広まりを調査しようと考え、1918年から20年にかけての日本国内での「スペインかぜ」の死者数を調査し、図Cのグラフを作成した。



▲図C

次に、太郎さんは、当時の人々の「スペインかぜ」の受け止め方を調べるため、1920年4月に発行された雑誌を確認した。そこには、当時の著名人364人が、100年後の日本に関して予想した特集が組まれていた。太郎さんは、各人が予想している内容を、大テーマごとに分類し、表1にまとめた。

日本国家・社会のありかた	日本国家・社会の具体的な様子	日本と世界の関係	テクノロジーの進歩	病気	他(予測不能等)
146	58	39	14	2	105

▲表1

表1の通り、「病気」の予想をしている人は非常に少なかった。予想した2名も、1人は病気全般について、もう1人は梅毒についての予想であり、雑誌の全体をみても「スペインかぜ」を連想させる記事や記述はほとんどなかった。太郎さんは、図Cをみるに「スペインかぜ」の死者数はこの時期にも多いことや、自分が経験した2020年以降のコロナ禍を思い出し、人々の「スペインかぜ」への関心が低いことを不思議に思い、さらに理由を検証しようと考えた。

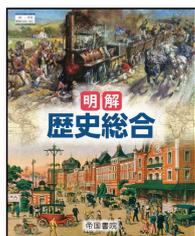
問 太郎さんが検証のために集めるべき資料として、①～④のうち、最も不要なものを一つ選べ。

- ① 1918年から21年までの、「スペインかぜ」を含む主な感染症の患者数の集計表
 ② 1918年から21年までの、平年と比べてすべての死者数の集計表
 ③ 1918年から21年までの、新聞での薬品に関する広告の割合の集計表
 ④ 1918年から21年までの、新聞の1面の見出しのうち、「スペインかぜ」に関わる内容の集計表

「思考力を測る問題例集」は、指導書 Webサポートに収録されます！

本冊子は、「思考力を測る問題例集」のうち、各教科2単元分を抜粋して解説とともに掲載したものです。
全単元分の問題は、指導資料に付属する指導書Webサポートとして、
教科別に令和9年度4月以降に順次公開予定です。

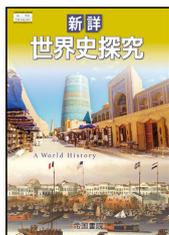
指導資料については、弊社Webサイト「高等学校教科書Web」の各教科書の内容紹介ページや、
内容解説資料をご覧ください。



明解 歴史総合

現在につながる
「世界×日本」がわかる教科書

『明解 歴史総合』の
内容紹介ページは、
右の二次元コードから
ご覧いただけます。



新詳 世界史探究

世界の構造と変化をとらえ、
探究する力を育てる教科書

『新詳世界史探究』の
内容紹介ページは、
右の二次元コードから
ご覧いただけます。



新詳 日本史探究

歴史の流れと背景をとらえ、
探究する力を育てる教科書

『新詳日本史探究』の
内容紹介ページは、
右の二次元コードから
ご覧いただけます。



令和9年度用の高等学校教科書については、
「高等学校教科書 Web」で紹介しております！

「高等学校教科書 Web」は、
右の二次元コードから
アクセスいただけます。



記事執筆・問題作成 滋賀県立高等学校元教諭 大橋 康一

写真協力 アフロ / 正倉院宝物 / ユニフォトプレス / ColBase(<https://colbase.nich.go.jp>) / Cynet Photo

 帝国書院

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-29

TEL : 03-3262-4795(代)

URL : <https://www.teikokushoin.co.jp/>

© Teikoku-shoin Co.,Ltd. 2026